

## 令和7年度 第1回 館山市子ども・子育て会議 要録

1 委員会名 館山市子ども・子育て会議

2 日 時 令和7年7月16日(水)10:00～11:45

3 会 場 市役所本館2階会議室

4 出席委員 石渡委員長、中島副委員長、富永委員、石垣委員、内田委員、清宮委員、  
中村委員、能重委員、高橋委員、田中委員、鈴木健一委員、津嶋委員、  
鈴木ひとみ委員、川上委員、川名委員

5 事務局 教育部長、こども課長、こども家庭センター長、舌間副参事、幼保係長、  
子育て支援係長、福原主事、佐藤主事

6 会議次第

1 開 会

2 市長挨拶

3 委嘱状交付

4 委員自己紹介

5 委員長・副委員長選任

6 議 事

(1)子ども・子育て支援事業計画実施状況について【資料①、②、③】

(2)西岬・豊房・館野幼稚園の閉園について【資料④】

(3)その他

7 閉 会

## ■議事

### (1) 子ども・子育て支援事業計画実施状況について【資料①、②、③】

こども課子育て支援係長より報告

## ■意見交換の詳細

(鈴木委員) この項目について見直していく予定はあるか。

(課長) この事業は第2期館山市子ども子育て支援事業計画に掲載のものとなり、令和6年度で終了しているため、今後は館山市子ども計画第1期計画に記載されている事業に引き継がれていく。

(鈴木委員) 事業番号103などはこのまま実施しないと思うが、こういうものは精査していった方がよい。確実に実施できるものを掲載してはどうか。

(課長) 評価等に記載のとおり、事業自体がなくなっているという記載だが、館山市こども計画の事業番号94番で、農業を通じた子どもの健全育成に趣旨としては引き継がれていく形になろうかと考えている。

## ■議事

### (2) 西岬・豊房・館野幼稚園の閉園について【資料④】

こども課幼保係長より説明

## ■意見交換の詳細

(川上委員) 子どもが少なく閉園するのは当然だと思うが、幼稚園にはスクールバスが出るか。

(課長) 各園の入園者数が非常に少なく、登園時間が小学校の登校時間と異なる。それまでに預かりを行うという考えもあるが、現時点で幼稚園のスクールバスは検討していない。

(川上委員) 子どもがいなくなることで過疎化がより深刻化することに不安がある。

(石垣委員) 館山白百合こども園ではスクールバスを運用している。ガス代や添乗員の人件費が掛かるため、保護者からバス代を徴収し、補助金の活用もしている。地域への貢献、私立園の役割として送迎は続けたいと思っているが、運営は厳しいところである。

(鈴木委員) 3園が閉園されると市内で幼稚園として残るのは館山幼稚園と那古幼稚園になるが、那古は長時間保育として実質的には保育園に近い運営ができていく。館山幼稚園ではスクールバスの運用を行い、延長保育等を行う工夫はできないか。

(課長) 館山白百合こども園で、スクールバスにより市内の送迎を行っていることも私立園の特色の一つであり、私立と公立の住み分けが重要と考える。館山幼稚園のこども園化についても、同様に私立園との住み分けを考慮し、実現には至っていないという状況もある。どのような形が市の保育・教育として最適なのかを検討していく。

(鈴木委員) 近隣ではユネスコ保育園が津波警戒区域になっている。統合してこども園化できないのか。

(課長) 考えの一つとして承知しているが、非常にデリケートな問題だと考える。

(富永委員) 保田小と勝山小が統合されるときに、やはり保護者の不安などは話に出た。うまくサポートして統合に向けていけたらいい。

(副委員長) 廃園となる豊房幼稚園の園長として、その先の不安などはあるか。

(津嶋委員) 統廃合が行われた後は大きい幼稚園のみが残る。集団保育をするうえで、ある程度適した人数というのはあるが、幼稚園は、家庭から離れて初めて子どもが社会生活を送る場所。そのスタートとして少人数の方が安心できる子どももいる。そういった子どもへのケアや支援が行われるとよい。

(川上委員) 館山幼稚園にはいちご組という支援クラスがあるが、3園が館山幼稚園に統合されることで、子どもが大きな集団の中で過ごすことに不安を感じる保護者もいると思う。職員の数を増やすなどして、保護者の不安解消と、子どもにとって楽しい幼稚園がスタートできることを期待する。

(課長) 入園希望の人数に応じて配置する職員の数も調整していくことになるだろうと思う。いちご組については、公立園に求められている役割だと感じている。

(石垣委員) 園児の人数に対して保育士の配置人数が決まっているため、少人数のクラスを作るとなると現状難しく、園としての負担が大きいため、少人数が適する子どもや、支援を要する子どもは多いが、療育の施設を利用することを保護者に勧める場合がある。少人数を望む子どもがいること、過疎化により小規模になった園を維持していくには運営費がかかること、切り離してそれぞれ考えていく必要がある。

(委員長) 様々な立場での意見があり、現状でできることとできないことがあるだろうが、今日の意見を受け止め、引き続き検討してほしい。

## ■議事

### (3) その他

## ■意見交換の詳細

(鈴木委員) 元気な広場を兄弟で利用していた家庭が、上の子が小学生に上がったことで利用できなくなっている。そのような家庭は夏休み中の行き場がない。未就学児までの対象を緩和して、兄弟で利用することはできないか。

- (課長) 課内及び元気な広場と検討したが、現状でも乳幼児と就学前の子どもで動きが大きく異なり、さらに小学生もとなると安全性の確保が難しい。スペースを区切ることも考えたが、既存の利用者のスペースが狭くなる。また、小学生の児童が満足できる遊具や設備の整備が新たに必要となるという点もある。
- (川上委員) 小学生といえど留守番はできず、兄弟で元気な広場を利用したくてもできない。しかし、館山市は遊ぶ場所が全くない。公園もいくつかあるが、この暑さの中ではとても遊べない。対象者を限定する必要があることも、新しい設備を整えることに費用が掛かることも理解するが、子育てをするにあたり十分に満足できる環境ではない。すべての子どもが安心して楽しく遊ぶことができる場所の提供を検討してほしい。
- (課長) こども計画策定のためのアンケートでも意見が出ており、市としても課題として最も認識しているところだが、やはり新たな施設を作るのは難しいというところで、学校再編による空校舎など、既存の施設を活用できるかどうかにも選択肢の一つとなるが、すぐに利用できるわけではない。引き続き検討し、取り組んでいきたい。
- (石垣委員) 園でも検討したことがあるが本当に難しい。幼児がいる中で小学生を預かるとなると、やはり動きが大きく異なるため安全面の確保が必要。設備や部屋も分ける必要があり、幼児にも小学生にも対応できる職員の配置も必要になる。
- (中島委員) 南総文化ホールの芝生広場で遊んでいた小学生に声をかけたところ、「兄弟が元気な広場を利用して、中に入れなから遊んで待っている」という子どもがおり、一緒に過ごせる方法はないのかと感じた。安全面を考慮するのであれば、曜日で対象者を変えたり、夏休みだけでも小学生を受け入れるなど試みてはどうか。
- (委員長) 小学生の利用についてお断りするのは忍びないと感じているが、一方で、仮に来館されても遊びや動きを制限することになり、子どもが望む遊びの提供ができないため、お断りしている。児童館がないため子どもに関すること、子育てに関することは元気な広場がその役割を担ってきた。元気な広場でできることもあるが、小学生の遊び場の提供については現状難しい。
- (石垣委員) 他市には素晴らしいこども館、児童館ができています。それは難しいと思うが、空いた施設を整備して活用するのが現実的だと考える。
- (川上委員) 元気な広場は広いスペースがあるが、5歳の子どもでも乳幼児向けの遊具や玩具では満足できない。幼稚園が2年保育ということにも衝撃を受けた。館山市として少子化、過疎化を抑えたいという気持ちを強く持たなければ、子どもたちに自信を持って将来も館山市に住み続けてほしいと言えない。館山市として魅力的な子育て支援、遊び場があるとよい。
- (田中委員) 住みやすいまちとして考えたときに子どもの遊び場は重要だと思う。学校等を借りて遊び場を提供することで、世代間のコミュニケーションを取ることにもできる。子どもにとって楽しい場所が館山市に一つでもあるとよい。
- (高橋委員) 少子高齢化の影響で税収が少なくなり、行政としても財源があればいくらかでも実施したいと考えていると思う。そこで行政だけではなく、民間が立ち上

がる必要があると考えている。館山市ならではの遊びや学びの提供をすることで、住み続けられる人が増え、移住定住につながり、税収が確保でき、より良い子育て環境の構築ができるサイクルにしていかなければならない。行政がその調整を行い、民間も子育て世帯も財源を生み出していく考え方、環境づくりに変えていく必要があると感じる。